

Exner の 包 括 的 シ ス テ ム

実施法と資料収集プログラムの作成

高 橋 雅 春 ・ 西 尾 博 行

Exner's Comprehensive Rorschach System :
Procedures of Administration and Comprehensive System Data
Storage Program (CSDSP)

Masaharu TAKAHASHI & Hiroyuki NISHIO

Abstract

A Comprehensive System was developed through the comparison of five Rorschach Systems in the united States. It was characterized by the easy administration and objective interpretation. The application of the Comprehensive System to Japanese subjects was our purpose at this time, and then, procedures of administration were described in detail and the Comprehensive System Data Storage Program(CSDSP) was written. We presented the brief explanation for the way of using this program.

Key words : Rorschach test, Exner, Comprehensive System, Computer program

抄 録

包括的システムは、アメリカの5つのロールシャッハ・システムの比較分析から生まれたロールシャッハ・システムであり、実施が容易で、客観的な解釈が行えるという特徴がある。今回我々は、包括的システムをわが国の被検者に適用したいと考え、実施法を詳述した。さらに、結果の集計や資料の蓄積を自動的に行うプログラムを開発し、その使用法について述べた。

キーワード：ロールシャッハ・テスト, エクスナー, 包括的システム, コンピュータプログラム

はじめに

Exner の包括的システムは、アメリカの5つの主要なロールシャッハ・システムの比較分析から生まれたロールシャッハ・システムである。1921年に Rorschach, H. が「精神診断学」を著して以来、1957年までに、アメリカには、Beck, Hertz, Klopfer, Piotrowski, Rapaport-Schafer らによって、5つの異なるロールシャッハ・システムが発展した。しかし、各システムは、実施法、スコアリング、解釈法にさまざまな相違があったし、実証的根拠に基づかない、いくつかのスコアや解釈仮説を含んでいた。Exner は、これら5つのシステムを比較分析し (Exner, 1969)、さらに各システムの実施法、スコアリング、解釈法に含まれるさまざまな要素の実証性、信頼性、妥当性を調査研究した。また、膨大な基準資料を得て、さまざまな標準化研究を行い、包括的システムと呼ばれる、新しいロールシャッハ・システムを作り上げた (Exner, 1974, 1978, 1986)。包括的システムでは、さまざまな実証的研究に基づいて実施法が標準化されていて、他のシステムに比べ、容易に学習し実施することができるといわれている。また、評定者間信頼性や妥当性の基準を満たすスコアやスコアの基準が設定され、解釈仮説もさまざまな研究によって妥当性が実証されているし、より客観的な解釈が行えるという特徴を有している。

実証性を重視し、より客観的な解釈を志向する Exner の立場は、現象学的な Klopfer の立場よりは、むしろ Rorschach 自身や Beck の立場に近いもので、ロールシャッハ・テストを「知覚のテスト」としてとらえ、被検者の知覚の仕方を分析し、そこに含まれるさまざまな要素間の相互関係から、客観的な解釈を行っていかうとするものである。アメリカでは、ロールシャッハ・テストに対する精神分析的な解釈への批判もあって、最近では、Klopfer など他のシステムに代わって、包括的システムの使用が増加している。

我々は、包括的システム (Exner, 1986) を翻訳し、近く出版することになっているが、それを機にこのシステムをわが国でも実施していきたいと考えている。そこでまず、包括的システムをわが国で実施する場合の実施法を明確にし、日本人被検者での標準化研究を行う上で必要な、資料収集プログラムの開発を行った。実施法は、Exner (1985, 1986) の記述に基づいている。しかし、我々の経験から判断して日本人の被検者に適用困難と思われる場合には、我々の考えも述べてある。従来、新しいシステムが紹介されると、その一部分のみを採用したり、あるいは変更したりすることがよく行われるが、包括的システムでは、そのようなことがないことを求めている。そのために資料収集プログラムは、Exner (1985, 1986) の考え方によって忠実に作成し、包括的システム以外のコードは一切使用できないようにした。

I 実 施 法

ロールシャッハ・テストを適切に実施する上で、座り方、教示、反応の記録、質問の方法は、検査者によって異なってはならない。これらの方法の変更は、検査結果に影響して反応数や報告された反応特徴に変化が生じることが明らかになっている。したがって、ロールシャッハ・テストを実施するにあたっては、定められた実施法に従うことがきわめて重要である。

準 備

ロールシャッハ・テストを実施するにあたって、次の用具を準備しなければならない。

1. ロールシャッハ図版

ロールシャッハ図版は、被検者の手が届かず、検査者の手が容易に届くところに、裏返して置くことが重要である。図版はあらかじめ I 図を一番上にし、正しい順序にしておかねばならない。検査者は検査前に図版の順序を確認するように習慣づけることが望ましい。また図版のシミや汚れは検査結果に影響するので、汚れた図版を使用してはならない。

2. 記録用紙

反応を記録する記録用紙には、さまざまな形式があるが、Exner は、反応を記録する形式が検査者によって異なってはならないと述べている。彼は、 $8\frac{1}{2} \times 11$ インチ (21.6×27.9 センチ) の用紙 (ほぼ A 4 判) を用いるのが最もよいとしており、我々も、Exner に従って、表 1 と表 2 のような記録用紙を使用している。なお領域図は、質問段階で使用する時まで、被検者には見えないように注意しなければならない。

3. ストップ・ウォッチ、あるいは秒針付きの腕時計

ストップ・ウォッチは、アナログ式でもデジタル式でもよいが、反応時間の測定が被検者の反応行動を妨害しないように、音の小さいものがよいし、被検者の視野に入らないようにするなどの配慮が必要である。

4. 筆記用具

鉛筆、ボールペンなど、検査者が使いなれたものを使用する。すべての反応を逐語的に記録しなければならないので、予備の筆記用具を準備することも大切である。

ロールシャッハ・テストを実施する部屋は、明るく静かな部屋であって、テスト中に検査者と被検者以外の他の人が出入りしないことが必要である。さらに、窓の外の風景に気を取られて、被検者が図版に注意を集中できないといったことがないように、机や椅子を適切に配置することも大切である。

座り方

包括的システムで、検査者と被検者が座る位置は、検査者と被検者が横に並んで座る位置を原則とする。この座り方は、検査者が被検者に与えてしまいがちな、不注意で不必要な手がかりの影響を減らすために選ばれたものであり、検査者と被検者が対面して座る位置で、このテストを実施してはならない。なお、横に並んで座ることで、被検者が述べる図版の特徴を、検査者はよく観察することができる。

教示

検査用具の準備が終わり、被検者が椅子に座ると、検査者は、被検者の協力が得られるように、被検者の緊張や不安を和らげ、被検者との間にラポールを形成するように努めねばならない。

ロールシャッハ・テストを始めるにあたって検査者は、被検者に「これから、あなたに10枚の絵を見せます。この絵を見てあなたが何に見えるかを言って下さい」と言い、I 図を手渡しながら「これは何に見えますか」と尋ねる（以後の図版でも同様に「これは何に見えますか」と尋ねる）。これが被検者への基本的な教示であり、他に何も付け加える必要はない。図版は最初、被検者の手に渡すが、手に持つことをためらう被検者には、「手に持って見て下さい」と言わねばならない。しかし、被検者が図版を受け取った後で、図版を机の上に置いて眺めた場合は、そのままにする。

「これは何に見えますか」という基本的な教示は大変重要であり、この教示を変更したり、他の言葉を付け加えてはならない。「これはなんだと思いますか」とか「これはどのように思えますか」といった教示は、知覚よりむしろ連想を暗示していて、被検者にこのテストが想像力のテストであるという不安を与える恐れがあるので、こうした教示は行わない。もし被検者が、図版への連想が求められていると誤って理解し、「想像力を働かせるのですか」と質問したり、「そうですね。芸術家が……を伝えようとしていますと思います」などと答えれば、検査者は「あなたに見えるものを言って下さい」と言って、連想でなく知覚を強調することが重要である。

反応段階

被検者が図版に反応している段階を、反応段階あるいは自由反応段階という。反応段階で検査者は、すべての言語内容を逐語的に、すばやくまた効率的に記録し、時には質問に適切に答えたり、被検者を間接的に励ますねばならない。反応段階では、検査者の沈黙が原則である。この原則は、図版を交換する時や、質問に答えたり被検者を励ますためには破られるが、その場合にも検査者は、場面にいかなる構えや方向性もさしはさまないように、注意深く話さねばならない。

質問と励まし

被検者の質問には、短く、正直に答えるが、人は図版にさまざまな方法で反応するという、一

般的な考えを間接的に答えねばならない。よく尋ねられる質問と、その質問に対する答の例を以下に示す。

S：回してもいいですか。

E：思ったようにして下さい。

S：全部を見るのですか。

E：好きなようにして下さい。人によって見るものも違います。

S：どこに見えたのか言うのですか。

E：そうしたければ、どうぞ（この時点では、質問段階のことは述べない）。

S：（反応の後に）この答でよろしいでしょうか。

E：はい、あなたに見えるものでしたら何でもかまいません。

S：答は正しいですか。

E：いろいろな答があります。

S：あなたにもそう見えますか。

E：ええ。私にはいろいろなものが見えます。

S：どのぐらいかかりますか。

E：そう長くはかかりません。

また「いくつ答えるのですか」という質問もよく生じるが、これに対する答は、この質問が反応段階のどの時点でなされたかによって異なる。被検者がⅠ図に反応を答える前なら、「いろいろなものが見えます」と答え、反応を1つ答えた後にこの質問をした場合は、「時間をかけるといろいろなものが見えると思います」と答えなければならない。被検者がⅠ図に2つ以上の反応を答えた後の質問であれば、「あなたの思ったようにして下さい」と答えるのが原則である。Ⅰ図以後の図版で被検者が同じ質問をした場合も、「あなたの思ったようにして下さい」と答える。

被検者がⅠ図に1つの反応を答えてだけで検査者に図版を返そうとした場合に限って、検査者は「もう少し時間をかけて見ると、ほかにも見えると思います」と被検者を励まさねばならない。この場合にのみ被検者を励ますのは、有効な解釈をするのに十分な反応数を答えるように、被検者に構えを持たせるためである。この励ましにもかかわらず、被検者がⅠ図に2つ目の反応を答えられない場合、検査者は被検者の決定に従わねばならない。

拒 否

反応の拒否がⅠ図で起こったり、上に述べた励ましにもかかわらず、被検者がⅠ図に1つの反応だけを答え、Ⅱ図に反応の拒否が生じた場合、拒否の原因は、検査者が被検者との十分なラポールを形成できなかったり、被検者がテストの目的を十分に理解していなかったりすることが多い。いずれの場合にも、検査者は直ちにテストを中断し、もう一度テストの目的について被検者

と話し合わねばならない。たいていの場合、話し合うことで被検者の協力が得られるので、もう一度 I 図にもどり、I 図からテストを実施していくことで、テストを続行することができる。しかし、被検者の中には、単にテストを受けたくない者もいるので、その場合にはロールシャッハ・テストを行うべきではない。

被検者がいくつかの図版に反応を答えた後で拒否が生じた場合には、それを安易に受け入れずに、「時間をかけて下さい。急ぐことはありません。誰でも何か見えますから、もう少し見てください」と励ます。Exner は、検査者が励ましても被検者が拒否しつづけ、拒否を避ける方法が他にない例外的な状況では、「いいですか、時間をかけて下さい。誰でも何か見つけられます。必要なら一日かけてもよいのです」と言うべきだと述べている。しかし、この種の圧力は、被検者の検査者への不信感が強まり、一層警戒して検査者とのラポールが壊れる恐れがあると我々は考える。そこで、検査者が励ました後で、1～2分間図版を見せても、被検者が依然として拒否しつづける時は、被検者の決定を受け入れ、その時点での時間を記録して、次の図版に移るべきであると考え、Exner の方法を修正している。高橋・北村（1981）の資料によると、臨床群、特に犯罪者群での拒否の頻度は正常者群に比べて高いので、検査者は安易に拒否を認めないという断固とした態度を持ちつつも、状況に応じた決定をしていかなければならない。

反応が多い場合の問題

被検者の中には、このテストに没頭しすぎ、強迫的に反応しつづける者もいる。包括的システムでは、こうした場合に被検者の反応数に一定の制限を設けている。

反応数の制限を行うのは、被検者が I 図に 6 つの反応を答えた時だけである。もし I 図に 5 つ以下の反応しか答えなかったら、被検者がその後の図版で反応をいくつ答えようとも、なんの制限も加えない。

被検者が I 図に 6 つの反応を答えた時、検査者は介入して、「これでけっこうです。次の絵を見て下さい」と言って、被検者から図版を取り上げる。この被検者が、その後の図版に 5 つの反応を答えつづける場合、検査者もそのつど同じ言葉を用いて介入するが、もし 4 つ以下の反応しか答えなかったら、その時点で介入をやめ、その後の図版では被検者がいくつ答えても、自由に反応させる。

反応の記録

反応を記録するには、まず記録用紙の図版の欄に、ローマ数字で図版の番号を記入する。次に反応段階と書かれた下に、始発反応時間、図版の位置、反応番号、反応の順に記録していく。Exner は反応時間を記録していないが、始発反応時間は、気分の動揺、思考障害や知能の問題を推定するのに有効と思われるので、我々は、始発反応時間のみを記録し、（各図版の終了時間は記入しないが、既述のように、拒否の場合のみ、終了時間も記入する）、解釈の際の参考資料

としている。図版の位置は、図版を縦にして答えた時は<か>、反対にして答えた時はV、図版を回転した時は○のように記入し、正位置の時には何の印も記入しない。反応番号は、アラビア数字で反応が出現した順に、I図からX図まで連続した番号を付ける（なお、感想に対しては反応番号を付けない）。反応は被検者が答えた通りに、逐語的に記録しなければならない。またできる限り被検者の質問、嘆声、身ぶり、態度なども記録することが望ましい。表3に、反応の記録を例示した。

表3 記録の記入例

図版	反応段階	質問段階	スコアリング	
I	10 [*] 1. 人が手をつないでいる。人が2人いて、手足をつないでいるみたいに見えます。 (図版を置く)(励まし) 2. コウモリみたいにも見えます。 3. 動物の顔みたいにも見えます。	E: (被検者の反応を繰り返す) S: 真ん中で分かれていて、両方が人で、この上の所が手で、下のここが足。それぞれがくっついている。 E: (被検者の反応を繰り返す) S: 中心が顔で、広がっている両横の方が羽です。 E: (被検者の反応を繰り返す) S: 上の部分が耳で、下の所が顔で、開いている所が目で口です。	[]
II	5 [*] 4. 人が2人手を合わせている。 (びっくり返してもいいですか?) v5. チョウミたいにも見える気がしますけど。逆さまにすると。	E: (被検者の反応を繰り返す) S: 真ん中で分かれて、このくっついた所が手で、赤い部分が顔で黒い部分が体です。 E: (被検者の反応を繰り返す) S: この赤い部分のここが触角に見えて、後の黒い部分が羽に見える。		
III	6 [*] 6. 人が物を引っ張り合っているようです。 7. ムシの頭みたいにも見えます。	E: (被検者の反応を繰り返す) S: この両横が人に見えて、真ん中のこの部分が何かに見える。この部分が手に見えたので、なにか引っ張っているかのようです。 E: (被検者の反応を繰り返す) S: ここから上がムシの頭で、ムシの頭を上から見ています。 E: 上から見ていますと言いますと。 S: 黒い部分を……この赤い所を触角と見てこの飛び出しているのが目で、中を見ないでこの輪郭を見てそう思いました。		
IV	37 [*] 8. 大男が立っている。	E: (被検者の反応を繰り返す) S: 両横のこの部分が足になって、だんだんこの上の部分が顔で、三角形の形になっていて、上の方が小さくなっているの、立って上から見下しているようです。		

反応の記録にあたっては、適当な略語を用いてもよいが、個人的な略語を用いた場合には、他の人もその記録を読んで理解できるように、記録を清書して保存するべきである。

時に被検者が非常に早口で長々と答え、反応を逐語的に記録することが困難なこともある。被検者の答を妨げるのは好ましくないが、逐語的な記録を行うために、やむを得ず被検者に答を繰り返してもらったり、もう少しゆっくり話すように頼む必要もあろう。被検者に答を繰り返してもらう場合には、記録できた答の最後の部分を読み上げ、例えば「……とおっしゃいましたね。それから」と言えばよい。

反応時間の記録

既述の通り、Exner は反応時間の記録は行っていないが、我々は始発反応時間と、拒否が生じた場合の終了時間を記録し、解釈の際の参考資料としている。

質問段階

質問段階の目的は、反応段階で述べられた反応を確実にコード化することである。被検者が反応段階で反応を十分に説明しているなら、質問段階の必要性は少ない。しかし多くの被検者は、反応段階で反応を十分に説明しないので、検査者は質問段階で、被検者が図版のどの領域に反応したか(領域)、図版の有する性質のどういうところから反応が生じたか(決定因子)、反応にはどのような内容が含まれているか(反応内容)、を明確にしなければならない。質問段階の目的は、反応を答えた時、被検者が何を知覚していたかを明らかにし、反応のコード化を行うことであり、被検者から新しい情報を引き出すためではない。

質問段階の前に、検査者は被検者に質問段階の方法と目的を、明確に説明しなければならない。被検者が、質問の理由と求められているものを十分に理解すれば、質問段階を適切に行うことができる。そうでなければ、検査者の質問に被検者が不安になったり、反抗的になったり、防衛的になったりする。

反応段階が終了すると、検査者は次のように教示する。「これから、もう一度これらの絵を見てもらいます。私もあなたと同じように見たいので、どこがそう見えたのか、なぜそう見えたのかを教えてください。よろしいですか」

この時、被検者が何か質問をした場合には、検査者は「あなたと同じように私も見たいのです」「あなたが見たのはどこか、どうしてそう見えたのかを話して下さいよ」のように、質問段階の目的にそって、はっきりと正直に答えねばならない。

被検者が質問段階の目的を理解したら、検査者は被検者にI図を手渡して、「あなたはこの絵で……と言われましたね。私にも見えるように教えてください」と、最初の反応を逐語的に読んで、質問段階を始める。

検査者は、それぞれの反応について、まずその反応を逐語的に読んで質問を始める。十分に協力的な被検者は、反応を正確にコード化するのに必要な情報を直ちに提供してくれる。しかし、反抗的な被検者や表現力の劣る被検者の中には、「そう見えるだけです」としか答えない者もいる。こうした被検者には、「あなたにそのように見えるのは分かります。でも私にも見えるように手伝って下さい」のように言うか、もう一度質問段階の目的を述べるなどして、被検者を回避的にさせてはならない。

なお被検者によっては質問段階で、すでに述べた反応を正当化しなければならないと考え、脅迫されていると感じる者もいる。このような被検者は、「私はそのようには言っていません。書き間違いです」と、反応を否認し、検査者の記録が誤りだと言ったり、「本当は、そう見えませんでした」とか「今はそうは見えません」と、反応を取り消そうとしたりする。検査者は質問段階でこのような抵抗に出会っても、臨機応変に、しかし断固とした態度で、質問を進めねばならない。被検者が反応を否認する時、検査者は「いいえ、間違いなくすべての言葉を書き取りました。これがその記録です。さあ、見つけて、私に教えてください」のように言わねばならない。も

し被検者が今はそう見えないと言え、**「もう一度見ると、物事が違って見えることが時々あります。でも時間をかけて、前のように見るようにして下さい。あなたが言ったことをもう一度言いますよ」**のように言って、再度しっかりと励ます必要がある。しかし、被検者が否認しつづける時には、Dd の領域と、マイナスの形態水準をコード化する。

一方、質問段階でこのテストの課題が明確になったことで、被検者の安心感が増し、新しい反応を答えることがよくある。質問段階で生じた新しい反応は、コード化をしたり、このテストの基本的な解釈に直接用いたりはしないが、忠実に記録し、質問しなければならない。

ところで、被検者の述べたことが反応ではなく、単に図版に対する感想や説明のことがある。被検者の発言が反応であるか、感想や説明であるかがはっきりしない時には、被検者が言ったことを逐語的に読み、「答として言われたのですか」と尋ねる。感想や説明として述べたのであれば、コード化をしないで、次の反応に移る。

質問段階での質問

質問段階の教示によって被検者が反応を説明しても、確実に反応をコード化できない場合には、さらに質問を行って、反応の領域、決定因子、反応内容を明確にする必要がある。反応のコード化は被検者の発言に基づいて行うので、質問段階での質問は、被検者が反応を答えた時に知覚したものを自発的に述べるように、常に非指示的な質問でなければならない。直接的な質問や誘導的な質問は、被検者に特定の構えや方向性を与えるので決して行ってはならない。

(1) 領域についての質問

被検者は通常どこがそう見えたかを説明するので、領域のコード化は比較的容易である。領域がはっきりしない時には、「あなたが見ている所がどこか、私には分かりません。私にも見えるように教えて下さい」と質問する。たいていの被検者はこの質問によって、反応で用いた領域を答えるので、検査者はコード化を行い、記録用紙の領域図に、被検者が答えた領域の輪郭を反応番号とともに記録する。インクプロットの全体を用いている時は、コード化のシンボルであるWを反応番号とともに、例えば 1-W のように記入する。領域図には、被検者が明確にした、反応に含まれる対象の特徴も記入する。例えば「人間」と答えて、目、腕、足などを説明した場合、それぞれの領域を記入する。また、「女の人がいて、その周りで2人の魔女が踊っている」のように、反応にいくつかの独立した対象が含まれている時も、領域図にそれぞれの特徴を記入する。

領域についての質問を行っても、被検者が領域についてあいまいな場合には、「指で周りをなぞっていくつかの部分を示して下さい」と指示すればよい。それでもなお領域が明確にならない場合には、最後の手段として、被検者にボールペンか鉛筆で領域図に輪郭を描かせてもよいが、これは理想的な方法ではない。すなわち、被検者はプロットそのものに描いていないことを、十分に理解した上で行うべきである。

(2) 決定因子についての質問

反応は、形態、運動、色彩、濃淡、あるいはこれらの組み合わせにより知覚されるので、コード化にあたって、これらの要素のうちのどれが反応を述べる際に重要であったかを明らかにしなければならない。決定因子のコード化を適切に行うために検査者は、コード化の方法を十分に理解していなければならない。形態が使用されたかどうかは、すべての反応で問題となるし、人間や動物の反応では、運動が決定因子となっている可能性がある。さらに、被検者が反応した領域に色彩や濃淡があれば、これらの要素が反応の形成に影響していることも考えられる。検査者はあらゆるコード化の可能性に照らして、被検者の発言を注意深く検討し、これらの決定因子の存在を確かめなければならない。

「どうしてあなたは………に見えたのですか。もう少し詳しく説明して下さい」と尋ねるのが、決定因子がはっきりしない場合の標準的な質問の仕方である。これに対する被検者の説明によって、明確となった決定因子をコード化する。しかし、被検者が反応の中で決定因子の存在を暗示するような言葉を述べていて、その言葉が十分に説明されていない時には、「………とおっしゃったのはなぜですか」とさらに質問しなければならない。例えば、被検者がⅢ図D3の領域(形と色からしばしば「赤いチョウ」と見られる)に「美しいチョウ」と答え、質問段階で「ここが触角で、ここが羽です」と説明した場合、「美しい」という言葉が色彩の使用を暗示しているのに、色彩については何も説明していない。そこで検査者は「美しいとおっしゃったのはなぜですか」と質問し、被検者が「きれいな色からそう思いました」と答えれば、色彩の決定因子をコード化する。しかしもし、被検者の答が「ええ、美しい形をした見事なチョウです」であれば、形態のみをコード化する。色彩の使用や運動の決定因子を引き出そうとして、「色からそう見えたのですか」とか「チョウが何かをしているのですか」といった直接的な質問は、質問段階では絶対に行ってはならない。質問は被検者の自発的な発言によって決定因子の存在が示された時に行うべきであり、すべての決定因子の存在を確かめようとしてはならない。したがって、もし被検者が「美しい」という言葉を用いていなかったら、質問段階での質問を行う必要はない。

決定因子の存在を暗示する言葉は、質問段階でも生じる。その場合には、質問するかどうかを慎重に決定しなければならない。この決定のための明確な原則はないが、そのような言葉が質問段階の初めに、自発的に生じたのであれば質問を行う。一方、質問段階が進み検査者が多くの質問をした後で生じたのであれば、質問段階での質問が、元の反応に存在しない新しい情報を引き出したかどうかを、よく考えて決めねばならない。一般的に、被検者が元の反応を単に説明しようとしているのだと、検査者が確信できれば、質問をしなければならない。例えば、被検者がⅡ図に「2人の人に見えます」と反応し、質問段階で「両側に1人ずついます。ここが頭で、手、足です。2人は何かしているようです」と答えたとしよう。「何かしている」という言葉からは、その運動が積極的か消極的かがはっきりしないので、「何かしているといえます」と質問しなければならない。この質問に対して、被検者が「喧嘩しています」と答えれば、積極的な運

動をコード化する。しかしこの答はまた色彩の使用を暗示しているので、「喧嘩しているとおっしゃったのはなぜですか」と質問して確かめねばならない。そしてもし、被検者が「この赤い所が血に見えるので、2人はなぐり合って血を流しているようです」と答えれば、色彩の決定因子をコード化する。このような質問を行うのは、被検者が決定因子の存在を暗示する言葉を明確に述べた場合であり、「喧嘩しているか何かだと思います」と答えて、決めかねているのなら、それ以上の質問を行ってはならない。

なお既述のように、質問段階では、「色からそう見えたのですか」「彼らは何かをしているのですか」のような直接的な質問や、「毛皮のどちら側ですか」「色が違ってもしのように見えるでしょうか」のような誘導的な質問は、被検者に好ましくない構えを作るので、決して行ってはならない。

同様に、「彼らは男性ですか女性ですか」「どうしてその人が悲しんでいると思ったのですか」のような、反応のコード化と直接関係のない材料を引き出そうとする質問も、その答が臨床的に役立つように思われても、質問段階では決して行うべきではない。

決定因子についての質問は、ロールシャッハ・テストのコード化の中で最もむずかしく、初心者には困難な作業と思われるかもしれないが、コード化の方法を理解し、経験を積めば、適切に行える。元の反応で被検者が知覚したことを明らかにするのが目的であるから、被検者の自発的な発言を慎重に検討して、常に非指示的な質問を行っていくことが重要である。

(3) 反応内容についての質問

反応にどのような内容が含まれるかは、通常、反応の中に示されるし、時には質問段階で明らかにされるので、特に質問しなくても容易にコード化できる。しかし反応内容が人間や動物の場合に、被検者の見たのが全身なのか、体の一部分なのかがはっきりしなければ、確かめる必要がある。また、反応内容の中には一次的内容としてコード化するよりは、二次的内容としてコード化することが多いので、コード化の可能性を慎重に検討しなければならない。

直接的な質問と限界吟味

質問段階の質問では明確にできなかったり、検査者が疑問に思うことがあれば、質問段階の終了後、直接的な質問や限界吟味を行う。その目的は、被検者の知覚に関するさまざまな情報を得て、パーソナリティの理解や治療計画に役立てるためである。

直接的な質問

反応に運動、色彩、あるいは濃淡の決定因子が見られない場合、被検者がこれらの決定因子を知覚できるかどうか、直接的な質問を行って確かめてよい。例えば、被検者が色彩のついている領域に「花」の反応を答えながら、色彩に言及していなかったら、「この絵で花と言われましたが、色は関係ありましたか」と尋ねればよいし、人間や動物を見ながら運動を述べなかったら、

「何かしているように見えますか」とか「動いているようですか」などと尋ねてもよい。同様に、濃淡を使用したのかを直接質問することができる。直接的な質問によって得られた情報は、反応した時の元の認知的な働きを反映しているとは限らないので、反応のコード化に用いてはならないが、臨床的には有効な情報となる。

限界吟味

被検者が平凡反応を全く答えなかったり、1つか2つしか答えなかったら、限界吟味を行って、被検者に著しい知覚の歪みが生じているのか、被検者が答を選択する際、ありふれた反応を放棄したのかを区別することが重要となる。特に精神分裂病者の治療計画を行う場合には、この区別が重要である。限界吟味の方法はきわめて簡単である。質問段階が終了した後で、検査者は、被検者が平凡反応を答えなかった図版を2〜3選び、被検者に図版を手渡し「時々この絵で(平凡反応を言う)が見られるのですが、そのようなものが何か見えますか」と尋ねる。この時、平凡反応の領域は、被検者に知らせない。

限界吟味は、再テストに影響を与えることがあるので、この方法によって得られる情報が真に重要な場合にのみ行うべきである。

II 資料収集プログラム

資料収集プログラム (CSDSP) の作成

Piotrowski (1964) 以来、ロールシャッハ・テストの資料をコンピュータ処理し、結果の集計を短時間で正確に行ったり、より客観的な解釈を行う試みが、いくつか行われてきた。それらの試みの多くは、必ずしも臨床家に受け入れられてはこなかった。しかし、ロールシャッハ・テストの標準化を意図し、テストとしての信頼性や妥当性を重視する、包括的システムが普及するにつれ、包括的システムに基づくさまざまなプログラムが作成され、コンピュータの利用が一般的になりつつある。

ロールシャッハ・テストの解釈にコンピュータを最初に用いたのは、Piotrowski (1964) であった。彼は、ロールシャッハ・テストの解釈をできる限り客観的に行う目的で、600以上の判断ルールに基づいて自動的に解釈文を出力する解釈プログラムを作成した。彼は1968年に、このプログラムを改訂し、判断ルールを937まで増やしたが、残念ながら当時は、コンピュータが今日ほど普及していなかったし、ロールシャッハ・テストが主に Klopfer と Beck のシステムに基づいて行われていたこともあって、彼の解釈プログラムが広く普及するまでには至らなかった。

しかし、解釈の客観性を重視する Piotrowski の立場は Exner へと引き継がれた。1974年に包括的システムが公刊されると、Exner はロールシャッハ研究財団で、ロールシャッハ・テストの解釈の補助にコンピュータを利用するためのプロジェクトを組織し、解釈支援プログラム

(RIAP: Rorschach Interpretation Assistance Program) を作成した (Exner, 1987)。このプログラムは、構造一覧表を自動的に作成し、構造一覧表に含まれるさまざまな要素間の関係を判断して、解釈文を自動的に出力するものである。Exner は、ロールシャッハ・テストの全ての資料がこのプログラムによって解釈されるのではない点を強調しており、このプログラムはあくまでも解釈の補助として用いるべきだと考えている。包括的システムの普及とともに、Exner 以外にも、包括的システムに基づいたコンピュータ処理が行われ、Hopwood ら (1981) は構造一覧表の自動作成プログラムを作成し、そのソースリストを公表しているし、Harris ら (1981) は、大型計算機とマイクロコンピュータを回線で結んで、ロールシャッハ・テストの解釈の自動化を行っている。また最近では、パーソナルコンピュータ上で動作するプログラムもいくつか作成されていて、Butcher, J. N. (1987) によると、3種類の市販プログラムのうちの2つが、包括的システムに基づいて結果の集計を行うプログラムである。

一方わが国では、梅津・加集 (1972) が、Klopfer のシステムに基づいて、結果の集計・作表を行うプログラムを作成した。また村上・村上 (1985) も、片口法 (1960, 1974) に基づき、パーソナルコンピュータ上で動作する、集計・作表のプログラムを作成し、その後、解釈の自動化を試みている (村上・村上, 1988)。しかしわが国では、これらのプログラムが研究者や臨床家の間で広く用いられるまでには至っていない。その背景には、包括的システムが普及する以前のアメリカのように、ロールシャッハ・テストを実施する人々が、このテストの実施法やスコアリングの方法を独自に修正したり、新しい要素を加えたりする、いわゆるロールシャッハ・テストの個人化を行っていて、1つのプログラムでそれらに対応することが困難なことや、コンピュータ処理に必要な基礎的研究や基準資料が不十分であることへの批判などが考えられる。

我々は、ロールシャッハ・テストの解釈は法則定立的にのみ行えるものではなく、さまざまな個性記述的な要素を加えてはじめて成し遂げられるので、これを完全にコンピュータ化することはできない、と考えている。しかし、機械的に行え、反面、時間のかかるロールシャッハ・テストの結果の集計の部分には、コンピュータを積極的に用いるべきだと考えている。また、わが国の被検者に包括的システムを実施するにあたって、日本人被検者の基準資料の収集・蓄積が急務なので、これにもコンピュータを利用したいと考えている。こうした目的で、今回我々は包括的システムに基づく資料収集プログラム (CSDSP: Comprehensive System Data Storage Program) を作成した。以下にその使用方法を簡単に説明し、CSDSP のソースリストを掲載する。

CSDSP の操作法

CSDSP は、日本語 PC-FORTRAN によって記述されており、NEC PC-9801 上で稼働する。このプログラムは、Exner (1986) に基づいて作成されているので、包括的システムで用いられるコード以外は一切受け付けない。したがって、包括的システムに基づいて、反応が正しくコード化されていないと判断される。

1. 起動方法

CSDSP のプログラムディスクをドライブAに、データ保存用のディスクをドライブBに入れて、CSDSP と入力し、リターンキーを押せばプログラムが起動する。プログラムが起動するとまず初期画面が現れるので、入力待ちの状態のリターンキーを押し、次に入力方法を選択する。それ以後は画面に表示されるメッセージに従って操作すればよい。

2. 個人情報の入力

入力方法の選択で、キーボードからの入力を選択すると、次に被検者のID番号(4桁の整数)、性別、年齢、被検者の属する群を入力する。個人情報をこの4項目にしたのは、このプログラムの主要な目的が資料の収集にあり、蓄積された資料が比較的オープンに利用される可能性が考えられるので、被検者のプライバシーに関する情報は最小限にとどめたためである。したがって、これ以外の個人情報については、別に管理する必要がある。

3. スコアの入力

スコアの入力は反応順に行う。

(1) 図版番号

すべての反応に図版番号を入力する。99を入力すると、スコアの入力が終了する。

(2) 領域と発達水準

予約語は、領域の「W, D, Dd, WS, DS, DdS」と発達水準の「+, /, o, v」であり、それ以外のコードは入力できない。発達水準の“v/+”は、Exner に従って“/”を用いる。領域と発達水準は W+, Dd/, WSo のようにつづけて入力する。なお予約語以外が入力されると、メッセージを表示して再度入力を求めるので、正しいコードを入力する。もしこの時点で、図版番号の入力ミスに気付けば、-1 を入力して(1)の図版番号の入力に戻り、訂正することができる。

(3) 領域番号

反応で用いられた領域の領域番号を入力する。W反応の場合には1と入力し、領域番号が付けられていない領域への反応の場合には99と入力する。-1 を入力して(2)に戻ることができる。

(4) 決定因子と形態水準

予約語は、決定因子の「Ma, Mp, FMa, FMp, ma, mp, C, Cn, CF, FC, C', C'F, FC', T, TF, FT, V, VF, FV, Y, YF, FY, rF, Fr, FD, F, Mb, FMb, mb」と形態水準の「+, o, u, -」である。なお、1つの反応に積極的運動と消極的運動が同時に存在する場合について、Exner は本文中で何も述べなかったが、後にある反応のコード化を説明して、a-p とコード化しそれぞれをカウントするとしている。我々は a-p に代わって、b (both) を用いることに決め、決定因子の予約語に「Mb, FMb, mb」を加えた。決定因子と形態水準は、Ma+, FMa. FCo のようにつづけて入力する。入力ミスは厳しくチ

チェックしているので、メッセージに従って訂正すればよい。また時には入力の確認を求め
るメッセージが表示されるので、コード化に誤りがないかも一度確認しなければならない。
例えば、Ma や Mp と入力した場合、一般には形態水準が必要であるが、人間運
動反応 (M) で形態水準がコード化されない場合があるので、確認を求めるメッセージを
表示する。またブレンド反応では、反応で出現した順に決定因子がコード化されるので
(Exner, 1985)、時には C, FMao のようなブレンドが生じることも考えられる。このよ
うに、C, Cn, C', T, V, Y が最初の決定因子で、形態水準がコード化されている場合に
も、確認のメッセージを表示する。-1 を入力して(3)に戻ることができる。

(5) ペア

ペア反応の時には、2 を入力する。それ以外はリターンキーを押して次に進む。-1 を入
力して(4)に戻ることができる。

(6) 内容

予約語は、「H, (H), Hd, (Hd), A, (A), Ad, (Ad), Ab, Al, An, Art, Ay, Bl, Bt,
Cg, Cl, Ex, Fi, Fd, Ge, Hh, La, Na, Sc, Sx, Xy, Id」である。「Idio」は「Id」と入
力する。複数の内容が生じた場合には、H, Bt, Id のようにコンマ (,) で区切って入力
する。-1 を入力して(5)に戻ることができる。

(7) 平凡

平凡反応の場合にPを入力する。そうでなければ、リターンキーを押す。-1 を入力して
(6)に戻ることができる。

(8) Zスコア

Zスコアを入力する。Zスコアがなければリターンキーを押す。-1. を入力して(7)に戻
ることができる(この場合のみ -1. と小数点を入力する)。

(9) 特殊スコアリング

予約語は、「DV, INC, DR, FAB, ALOG, CON, AG, CFB, CP, MOR, PER, PSV」で
ある。Exner に従って、次のような略語を使用している。INC=INCOM, FAB=FABC
OM, CON=CONTAM, CFB=CONFAB。複数の特殊スコアが生じた場合には、コン
マで区切って入力する。-1 を入力して(8)に戻ることができる。

特殊スコアリングの入力が終了すると、入力されたスコアを表示して、「よろしいですか?
(Y/N)」と確認を求めるので、入力に誤りがなければ「Y」を押して次の反応の入力に進む。
ここでも-1 を入力して(9)に戻ることができる。また「N」を押すと、(1)に戻って最初から入力
しなければならない。なお「Y」を押して入力を確定すると、その後の変更はできないので、し
っかりと確認しなければならない。

スコアの入力にあたって、現在のバージョンで入力できるのは、反応数60、ブレンドでの決定
因子5、内容4、特殊スコア4である。また、印刷可能なブレンド反応の数は20である。

4. スコアの系列と構造一覧表の印刷と保存

スコアの入力が終了すると、スコアの系列と構造一覧表の、印刷と保存を行う。保存を選択すると、保存するファイル名を入力するように求めるので、例えばB:NO 1. DAT のようにファイル名を入力する。この際、必ずB:とドライブの指定をしなければならない。なお、ドライブBに以下のファイルが既に存在していれば、保存するファイル名の入力を求めず、被検者の属する群に対応するファイルに資料が自動的に保存される。

スコアの系列が自動的に保存されるファイルは、NO. DAT (正常者), NE. DAT (神経症者), AL. DAT (アルコール症者), DE. DAT (非行少年), SC. DAT (精神分裂病者), AT.

```

Comprehensive System

Data Storage Program Ver.1.2
                    1990.5
                    Programed by H.Nishio

スコアの入力 (1:キーボード 2:ファイル)          (1/2) --> 1
被検者のID番号を入力して下さい。          --> 1
性別 (1:男 2:女) (1/2)                    --> 2
年齢                                         --> 20

分類
-----
正常者群          --> 1
神経症者群        --> 2
アルコール症者群 --> 3
非行少年者群      --> 4
精神分裂病者群    --> 5
非定型精神病者群 --> 6
うつ病者群        --> 7
躁病者群          --> 8
人格障害者群      --> 9
その他            --> 10
-----
--> 1

よろしいですか? (Y/N) --> Y

第1反応のスコアを入力して下さい。(終了は99と入力します)

図版番号          --> 1
領域番号          --> D+
領域番号          --> 2
決定因子          --> Mao
ペーア            --> 2
内容              --> .H
平凡              -->
Z-スコア          --> .4.
特殊スコアリンク* -->

Cd No LOC DQ # 決定因子   FQ 2 内 容       P Z   特殊スコアリンク*
1 1 D + 2 Ma             o 2 H             4.0

よろしいですか? (Y/N) --> Y

第2反応のスコアを入力して下さい。(終了は99と入力します)

```

図1 CSDSP の操作例

表4 スコアの系列の例

スコアの系列				(5 2 48 3)		
Cd No	領域	# 決定因子	2. 内容	P	Zsc	特殊スコアリング*
I	1 Do	4 Fo	A	P	1.0	
	2 Wo	1 Fo	A			
II	3 Ddo	99 ma-	Sc			
III	4 D+	1 FMao	2 A		3.0	
IV	5 Do	7 ma. FTo	Ad		2.0	MOR
	6 Wo	1 F-	A			
V	7 Wo	1 FC' o	A	P	1.0	DV
VI	8 Wo	1 mau	Cg, Ad		2.5	CON
VII	9 Do	3 F-	2 (Hd)		2.5	DR
	10 Do	9 Fo				
	11 Wo	1 F-				
VIII	12 Dd+	99 FMa. CFo	A, Fd		3.0	DR
	13 Do	2 mp. CFo	Bt			
IX	14 Do	6 CFo	Bt			
	15 Dv	3 C	Fi			
X	16 Dv	9 C	Fi			
	17 Ddo	99 Fo	A			

DAT (非定型精神病者), DP. DAT (うつ病者), MA. DAT (躁病者), PD. DAT (人格障害者), ZZ. DAT (その他) である。

同様に、構造一覧表の資料は、ドライブBに、NO. SUM, NE. SUM, AL. SUM, DE. SUM, SC. SUM, AT. SUM, DP. SUM, MA. SUM, PD. SUM, ZZ. SUM のファイルが存在していれば、自動的に保存される。したがって、各群の最初の被検者の記録を保存する時にこれらのファイル名を入力しておけば、以後ファイル名の入力は不要となる。

一連の操作例を図1に示した。また表4と表5は、スコアの系列と構造一覧表の出力例である。

5. スコアの変更

CSDSP の現在のバージョンでは、スコアの入力を一度確定すると、プログラム上でのスコアの変更はできない。スコアリングの不確定な記録は、入力前に十分検討することが重要であるが、それでもスコアの変更が生じた場合には、スコアの系列が保存されているファイルを、エディタかワープロを用いて修正すればよい。スコアリングを数名の検査者が検討して最終的なスコアを決定する場合には、スコアの系列を被検者ごとに別のファイルに保存しておき、修正を行った後に、その記録をファイル入力によって読み込んで、上記のファイルに保存・蓄積すればよい。

Exner の包括的システム (高橋・西尾)

表5 構造一覧表の例

STRUCTURAL SUMMARY (5 2 48 3)					
R = 17	Zf = 7	ZSum = 15.0	P = 2	(2) = 2	Fr+rF = 0
LOCATION FEATURES	BLEND S	DETERMINANTS	SINGLE	CONTENTS	S-CONSTELLATION (ADULT)
W = 5 (Wv= 0)	ma . FT FMa . CF		M = 0 FM = 1	H = 0, 0 (H) = 0, 0	.. FV+VF+V+FD>2 .. Col-Shd B1>0
D = 9	mp . CF		m = 2 C = 2	Hd = 0, 0 (Hd)= 1, 0	Yes.. Ego<. 31, >. 44 .. MOR > 3
Dd= 3			Cn = 0 CF = 1	A = 7, 0 (A) = 0, 0	Yes.. Zd > + - 3.5 Yes.. es > EA
S = 0			FC = 0 C' = 0	Ad = 2, 1 (Ad)= 0, 0	Yes.. CF+C+Cn > FC Yes.. X+ < .70
			C'F= 0 FC'= 1	Ab = 0, 0 Al = 0, 0	.. S > 3 Yes.. P < 3 OR >8
			T = 0 TF = 0	An = 0, 0 Art = 0, 0	Yes.. Pure H < 2 .. R < 17
			FT = 0 V = 0	Ay = 0, 0 Bl = 0, 0	7..... TOTAL
			VF = 0 FV = 0	Bt = 2, 0 Cg = 1, 0	SPECIAL SCORINGS
			Y = 0 YF = 0	C1 = 0, 0 Ex = 0, 0	DV = 1 INCOM = 0
			FY = 0 rF = 0	Fi = 2, 0 Fd = 0, 1	DR = 2 FABCOM = 0
			Fr = 0 FD = 0	Ge = 0, 0 Hh = 0, 0	ALOG = 0 CONTAM = 1
			F = 7 Na = 0, 0	LS = 0, 0 Sc = 1, 0	WSUM6 = 14 AG = 0
				Sx = 0, 0 Xy = 0, 0	CONFAB = 0 CP = 0
				Idio= 1, 0	MOR = 1 PER = 0
					PSV = 0
RATIOS, PERCENTAGES, AND DERIVATIONS					
ZSum-Zest = 15.0 - 20.5			FC:CF+C = 0: 5 (Pure C = 2)	W:M = 5: 0	
Zd = -5.5			Afr = 0.55	W:D = 5: 9	
:EB = 0: 6.0 EA = 6.0:			3r+(2)/R = 0.12	Isolate:R = 2:17	
: : > D= 0			L = 0.70	Ab+Art = 0	
:-eb = 6: 2 es = 8 :			Blends:R = 3:17	An+Xy = 0	
(FM= 2 C'= 1 T= 1) (AdjD= 0)			X+% = 0.59 (F+% = 0.57)	H(H):Hd(Hd)= 0: 1 (Pure H= 0)	
(m = 4 V = 0 Y = 0)			X-% = 0.24	(HHd): (AAd)= 1: 0	
a:p = 5: 1				H+A:Hd+Ad = 7: 3	
Ma:Mp = 0: 0					
SCZI = 4		DEPI = 1		S-CON = 7	

6. 資料の利用方法

構造一覧表に含まれる資料は、次のフォーマットで記録されている。

- 被検者の属する群, 性別, 年齢, ID番号 (2I2, I3, I4)
- A(51) (51I2)
- DQx (4), FQx (5), Mqual. (5), 特殊スコア (12) (26I2)
- B(12) (12F6.2)

なお, A(51), B(12)の内容は, ソースリストのサブルーテン STSUM の最初に示した通りで

ある。また、DQx (4), FQx (5), Mqual. (5), 特殊スコア(12)は、構造一覧表に記載されている上から順に記録してある。

研究者は、研究目的に応じてこれらの資料を読み出し利用することができる。

(本研究は、平成2年度の関西大学学部共同研究によって行ったものである。)

参 考 文 献

- Butcher, J. N. (1987) Computerized psychological assessment. New York : Basic Books.
- Exner, J. N. (1969) The Rorschach systems. New York : Grune & Stratton. (本明寛・今井とも子・和田美代子訳 1972 ロールシャッハ・テスト——分析と解釈の基本——実務教育出版)
- Exner, J. E. (1974) The Rorschach : A comprehensive system. vol. 1. New York : Wiley.
- Exner, J. E. (1978) The Rorschach : A comprehensive system. vol. 2. New York : Wiley.
- Exner, J. E. (1985) A Rorschach workbook for the comprehensive system. second edition. Rorschach workshops.
- Exner, J. E. (1986) The Rorschach : A comprehensive system. second edition. vol. 1. New York : Wiley.
- Exner, J. E. (1987) Computer assistance in Rorschach interpretation. *British Journal of Projective Psychology*, 32, 2-19.
- Harris, W. G., Niedner, D., Feldman, C., Fink, A., & Johnson, J. H. (1981) An on-line interpretive Rorschach approach : Using Exner's comprehensive system. *Behavior Research Methods and Instrumentation*, 13, 588-591.
- Hopwood, J. H., Wei, K. H., & Yellin, A. M. (1981) A computerized method for generating the Rorschach's structural summary from the sequence of scores. *Journal of Personality Assessment*, 45, 2, 116-117.
- 片口安史 (1960) 心理診断法詳説 牧書店。
- 片口安史 (1974) 新・心理診断法 金子書房。
- 村上宣寛・村上千恵子 (1985) パーソナル・コンピュータによるロールシャッハ・テスト採点システム *Information*, 4, 6, 65-72.
- 村上宣寛・村上千恵子 (1988) ロールシャッハ・テストの自動診断システム *計量行動学*, 15, 2, 22-31.
- Piotrowski, Z. A. (1964) Digital-computer interpretation of inkblot test data. *Psychiatric Quarterly*, 38, 1-26.
- Rorschach, H. (1921) *Psychodiagnostik* : Verlag Hans Huber. (片口安史訳 1976 精神診断学 (改訳版) 金子書房)
- 高橋雅春・北村依子 (1981) ロールシャッハ診断法 I, II サイエンス社。
- 梅津耕作・加集悦子 (1972) ロールシャッハ・テストの自動処理方式(I)——集計, 作表について——。精神医学研究所業績集 18, 93-105.

CSDSP ソースリスト

```
C*****
C*** Comprehensive System
C***
C*** Data Storage Program Ver.1.2
C*** 1990.5
C*** Programed by H.Nishio
C***
C*****
```

```
PROGRAM CSDSP
CHARACTER*1 DQ(60), FQ(60), PAIR(60), POP(60), DQS(4), FQS(5)
CHARACTER*1 ANS, ANS1, ANS2, ANS3, ANS4
CHARACTER*3 LOC(60), DETEM(60,5), DES(25), LOS(6)
CHARACTER*4 CONT(60,4), SPSC(60,4), CONTS(28), SPSCS(12), LOCDDQ(60)
CHARACTER*12 FILENM, FID
CHARACTER*16 CNTSQ(60), SPSEQ(60)
CHARACTER*19 DETFQ(60)
DIMENSION Z(60), NCAD(60), NO1(60), NO2(60)
INTEGER SEX, AGE, GRP
```

```
DATA DES/'Ma', 'Fm', 'ma', 'C', 'Cn', 'CF', 'FC', 'C', 'C', 'C', 'F', 'F',
+ 'FC', 'T', 'TF', 'FT', 'V', 'VF', 'FV', 'Y', 'YF', 'FY',
+ 'FP', 'F', 'FP', 'F', 'FP', 'M', 'M', 'Mb', 'FMB', 'mb',
DATA LOS/'W', 'D', 'Dd', 'WS', 'DS', 'Dds',
DATA DQS/'+', 'o', 'u', 'v',
DATA FQS/'+', 'o', 'u', 'v',
DATA CONTS/'H', 'Hd', 'Hd', 'A', '(A)', 'Ad',
+ '(Ad)', 'Ab', 'A', 'An', 'Art', 'Ay', 'B', 'Bt', 'Cg',
+ 'Cl', 'E', 'F', 'Fd', 'Ge', 'Hh', 'Ls', 'Ma', 'Sc',
+ 'Sx', 'Xy', 'Id',
DATA SPSCS/'DV', 'INC', 'DR', 'FAB', 'ALOG', 'CON', 'AG',
+ 'CFB', 'CP', 'MOR', 'PER', 'PSV',
```

CALL TLPT

```
C***** INPUT *****
1 CALL TCLR
WRITE(6, '(A,$)') ' スコアの入力 (1:キーボード 2:ファイル) '
+ (V/N) -->
READ(5, *) INP
IF (INP.EQ.2) GOTO 1
IF (INP.EQ.1) GOTO 2
IF (INP.EQ.2) GOTO 3
```

```
C***** 2 KEYBOARD *****
2 CALL RINPUT(NC.AD, NO1, LOC, DQ, NO2, DETEM, FQ, PAIR, CONT,
+ POP, Z, SPSC, DES, LOS, DQS, FQS, CONTS, SPSCS, N, ID, SEX, AGE, GRP,
+ DETFQ, LOCDDQ, CNTSQ, SPSEQ)
GOTO 5
```

```
C***** 3 FILE *****
3 WRITE(6, '(//A,$)') ' ファイル名を入力して下さい。 '
+ (V/N) -->
READ(5, '(A12)') FILENM
OPEN(2, ERR=900, STATUS='OLD', FILE=FILENM)
READ(2, '(A12)') FID
4 CALL RINPUT(NC.AD, NO1, LOC, DQ, NO2, DETEM, FQ, PAIR, CONT,
+ POP, Z, SPSC, DES, LOS, DQS, FQS, CONTS, SPSCS, N, ID, SEX, AGE, GRP,
+ DETFQ, LOCDDQ, CNTSQ, SPSEQ, NEND, NERR)
IF (NERR.EQ.1) THEN
```

```
CLOSE(2)
GOTO 3
ENDIF
IF (NEND.EQ.1) THEN
WRITE(6, '(//A,$)') ' ===== DATA END ===== '
CLOSE(2)
GOTO 999
ENDIF
```

```
CALL PRNTD(N, ID, SEX, AGE, GRP)
C***** 5 *****
5 IF (N.EQ.0) GOTO 6
WRITE(6, '(A,20X,A,$)') ' スコアの系列を印刷しますか? ',
+ (V/N) -->
READ(5, '(A1)') ANS1
WRITE(6, '(A,20X,A,$)') ' スコアの系列を保存しますか? ',
+ (V/N) -->
READ(5, '(A1)') ANS2
WRITE(6, '(A,20X,A,$)') ' 構造一覧表を印刷しますか? ',
+ (V/N) -->
READ(5, '(A1)') ANS3
WRITE(6, '(A,20X,A,$)') ' 資料を保存しますか? ',
+ (V/N) -->
READ(5, '(A1)') ANS4
```

```
CALL PRNTSQ(NC.AD, NO1, LOCDDQ, NO2, DETFQ, PAIR, CNTSQ, POP, Z, SPSEQ,
+ N, ID, SEX, AGE, GRP, ANS1)
IF (ANS2.EQ. 'Y' .OR. ANS2.EQ. 'y') THEN
CALL DSAVE(NC.AD, NO1, LOCDDQ, NO2, DETFQ, PAIR, CNTSQ, POP, Z, SPSEQ,
+ N, ID, SEX, AGE, GRP)
```

```
ENDIF
CALL STSUM(N, LOC, DQ, DETEM, FQ, PAIR, CONT, POP, Z, SPSC, NCAD,
+ DES, LOS, DQS, FQS, CONTS, SPSCS, ID, SEX, AGE, GRP, ANS3, ANS4)
IF (INP.EQ.1) GOTO 6
WRITE(6, '(//A,$)') ' 次のデータを読み込みますか? (Y/N) --> '
READ(5, '(A1)') ANS
IF (ANS.EQ. 'N' .OR. ANS.EQ. 'n') THEN
CLOSE(2)
GOTO 999
ELSE
GOTO 4
ENDIF
```

```
C***** 6 *****
6 WRITE(6, '(A,$)') ' 別の記録を入力しますか? (Y/N) --> '
IF (ANS.EQ. 'Y' .OR. ANS.EQ. 'y') GOTO 2
GOTO 999
900 WRITE(6, '(A)') ' ファイルの指定が間違っています。 '
999 WRITE(6, '(//A,$)') ' 終了してよろしいですか? (Y/N) --> '
READ(5, '(A1)') ANS
IF (ANS.EQ. 'N' .OR. ANS.EQ. 'n') GOTO 1
STOP
END
```

```

C*****
SUBROUTINE STSUM(NR,LOC,DQ,DETM,FQ,PAIR,CONT,POP,Z,SPSC,NCAD,
+DES,LDQS,DQS,FQS,CONTS,SPSCS,LD,SEX,AGE,GRP,ANS,ANSI)
C*****
C***** Subroutine for Structural Summary *****
C A(1) <-- NR A(2) <-- P A(3) <-- W A(4) <-- D
C A(5) <-- Dd A(6) <-- S A(7) <-- M A(8) <-- Ma
C A(9) <-- Mp A(10) <-- FM A(11) <-- m A(12) <-- a
C A(13) <-- P A(14) <-- FC A(15) <-- CF A(16) <-- C+Cn
C A(17) <-- FC+C'F+C' A(18) <-- FT+TF+T A(19) <-- FV+VF+V A(20) <-- F+YF+Y
C A(21) <-- F+rF A(22) <-- (2) A(23) <-- FD A(24) <-- F
C A(25) <-- Zf A(26) <-- es A(27) <-- A(28) <-- Adj D
C A(29) <-- Blends A(30) <-- Col-Sh Bl A(31) <-- S-Core A(32) <-- Pure H
C A(33) <-- all H Cont A(34) <-- S-Cop A(35) <-- SCZI A(36) <-- DEPI
C A(37) <-- Sum6 SPSC A(38) <-- Sum6 SPSC A(39) <-- WY A(40) <-- CF+C
C A(41) <-- Iso A(42) <-- Ab+Att A(43) <-- FM+m A(44) <-- C'+V+T+Y
C A(45) <-- Ab+XY A(46) <-- H+(H) A(47) <-- Hg+(Hd) A(48) <-- H+A
C A(49) <-- Hd+Ad A(50) <-- (H)+(Hd) A(51) <-- (A)+(Ad)
C
C B(1) <-- Nsum C B(2) <-- EA B(3) <-- Afr B(4) <-- 3+(2)/R
C B(5) <-- LAMBDA B(6) <-- Yx B(7) <-- F+y B(8) <-- Y-x
C B(9) <-- AX B(10) <-- Zsum B(11) <-- ZEST B(12) <-- Zb
C*****
CHARACTER*1 DQ(60), FQ(60), PAIR(60), POP(60), DQS(4), FQS(5),
+DOT(60,4), ANS, ANSI
CHARACTER*3 LOC(60), DETM(60,5), DES(29), LOS(6), BLEND(60,5),
+SCORS(12)
CHARACTER*4 CONT(60,4), SPSC(60,4), CONTS(28), SPSCS(12)
DIMENSION Z(60), NDES(29), NDES(J), NLOS(6), NDQS(4), RDNFH(4),
+NFQX(5), B(12)
DIMENSION NFQF(5), NHQ(5), NCTMS(28), NCTAS(28), NSPS(12), NCAD(60)
INTEGER A(51)
INTEGER SEX, AGE, GRP
LP=6
DO 1 I=1, 51
A(I)=0
1 CONTINUE
DO 2 I=1, 12
B(I)=0
2 CONTINUE
DO 3 I=1, 4
NDQS(I)=0
NDFH(I)=0
3 CONTINUE
DO 4 I=1, 5
NFQX(I)=0
NFQF(I)=0
NHQ(I)=0
4 CONTINUE
DO 5 I=1, 6
MLOS(I)=0
5 CONTINUE
DO 6 I=1, 12
NSPS(I)=0
6 CONTINUE
DO 7 I=1, 29
NDES(I)=0
NDES(J)=0
NDES(I)=0
NDES(J)=0
*****
7 CONTINUE
DO 8 I=1, 28
NCTMS(I)=0
8 CONTINUE
DO 9 J=1, 5
DO 10 J=1, 4
DOT(I,J)=,
10 CONTINUE
11 CONTINUE
DO 23 I=1, NR
DO 14 J=1, 29
DO 13 K=1, 5
IF(DETM(I,K).EQ.' ') GOTO 14
IF(DETM(I,K).EQ.DES(J)) NDES(J)=NDES(J)+1
13 CONTINUE
14 CONTINUE
ENDIF
C LOCATION
DO 15 J=1, 6
IF(LOC(I).EQ.LOS(J)) MLOS(J)=MLOS(J)+1
15 CONTINUE
IF(LOC(I).EQ.'M'.AND.DQ(I).EQ.'V') A(39)=A(39)+1
IF(LOC(I).EQ.'MS'.AND.DQ(I).EQ.'V') A(39)=A(39)+1
C DQ
DO 16 J=1, 4
IF(DQ(I).EQ.DQS(J)) NDQS(J)=NDQS(J)+1
IF(DQ(I).EQ.DAS(J).AND.FQ(I).EQ.'-') NDFM(J)=NDFM(J)+1
16 CONTINUE
C FQ
DO 18 J=1, 5
IF(FQ(I).EQ.FQS(J)) NFQX(J)=NFQX(J)+1
DO 17 K=1, 5
IF(DETM(I,K).EQ.' ') GOTO 18
IF(DETM(I,K).EQ.F'.AND.FQ(I).EQ.FQS(J)) NFQF(J)=NFQF(J)+1
IF(DETM(I,K).EQ.'Ms'.AND.FQ(I).EQ.FQS(J)) NHQ(J)=NHQ(J)+1
IF(DETM(I,K).EQ.'Mp'.AND.FQ(I).EQ.FQS(J)) NHQ(J)=NHQ(J)+1
IF(DETM(I,K).EQ.'Mb'.AND.FQ(I).EQ.FQS(J)) NHQ(J)=NHQ(J)+1
17 CONTINUE
18 CONTINUE
C CONTENT
DO 20 J=1, 28
IF(CONT(I,1).EQ.CONTS(J)) NCTMS(J)=NCTMS(J)+1
20 CONTINUE

```

Exner の包括的システム (高橋・西尾)

```

DO 19 K=2,4
  IF (CONT(I,K).EQ.' ') GOTO 20
  IF (CONT(I,K).EQ.CONTS(J)) NCTAS(J)=NCTAS(J)+1
19 CONTINUE
20 CONTINUE

C SPECIAL SCORE
DO 22 J=1,12
  DO 21 K=1,4
    IF (SPSC(I,K).EQ.' ') GOTO 22
    IF (SPSC(I,K).EQ.SPSCS(J)) NSPS(J)=NSPS(J)+1
21 CONTINUE
22 CONTINUE
C PAIR POP Zf ZSUM
  IF (PAIR(I).EQ.'2') A(22)=A(22)+1
  IF (POP(I).EQ.'P') A(2)=A(2)+1
  IF (Z(I).GE.1.0) A(25)=A(25)+1
  B(10)=B(10)+Z(1)
23 CONTINUE

-----
C W D d d S
  A(3)=NLOS(1)+NLOS(4)
  A(4)=NLOS(2)+NLOS(5)
  A(5)=NLOS(3)+NLOS(6)
  A(6)=NLOS(4)+NLOS(5)+NLOS(6)
C F+T F
  A(21)=NDES(20)+NDES(21)+NDES(21)
C NSUM6
  A(38)=NSPS(1)+NSPS(2)+2*NSPS(3)+3*NSPS(4)+4*NSPS(5)+5*NSPS(6)*7
C ESTIMATION OF Z VALUE
  CALL ZEST(A(25),B(11),B(10))
C ***** RATIO PERCENTAGES DERIVATIONS *****
C Zd B(12)=B(10)-B(11)
C Single M, FM, m
  NSPM=NDES(1)+NDES(24)+NDES(27)
  NSPFM=NDES(2)+NDES(25)+NDES(28)
  NSPSM=NDES(3)+NDES(26)+NDES(29)
C Sum M
  A(7)=NDES(1)+NDES(1)+NDES(24)+NDES(27)+NDES(27)
C Sum weighted C
  B(1)=FLOAT(NDES(7)+NDES(7))*0.5+FLOAT(NDES(6)+NDES(6))
  +1.0+FLOAT(NDES(4)+NDES(4))*1.5
C EA B(2)=FLOAT(A(7))+B(1)
C eb A(43)=NDES(2)+NDES(2)+NDES(3)+NDES(3)+NDES(3)+NDES(25)+NDES(25)+
  +NDES(26)+NDES(26)+NDES(28)+NDES(28)+NDES(29)+NDES(29)

```

```

DO 30 I=8,19
  A(44)=A(44)+NDES(1)+NDES(1)
30 CONTINUE
C es A(26)=A(43)+A(44)
C a DO 32 I=1,3
  A(12)=A(12)+NDES(1)+NDES(1)
32 CONTINUE
DO 33 I=27,29
  A(12)=A(12)+NDES(1)+NDES(1)
33 CONTINUE
C P DO 34 I=24,29
  A(13)=A(13)+NDES(1)+NDES(1)
34 CONTINUE
C Ma A(8)=NDES(1)+NDES(1)+NDES(27)+NDES(27)
C Mp A(9)=NDES(24)+NDES(24)+NDES(27)+NDES(27)
C Fw A(10)=NDES(2)+NDES(2)+NDES(25)+NDES(25)+NDES(28)+NDES(28)
C m A(11)=NDES(3)+NDES(3)+NDES(26)+NDES(26)+NDES(29)+NDES(29)
C C' DO 36 I=8,10
  A(17)=A(17)+NDES(1)+NDES(1)
36 CONTINUE
C T DO 38 I=11,13
  A(18)=A(18)+NDES(1)+NDES(1)
38 CONTINUE
C V DO 40 I=14,16
  A(19)=A(19)+NDES(1)+NDES(1)
40 CONTINUE
C Y DO 42 I=17,19
  A(20)=A(20)+NDES(1)+NDES(1)
42 CONTINUE
C D DSCR=B(2)-FLOAT(A(26))
  CALL DCONV(DSCR,A(27))
C ADJ D
  ADJES=FLOAT(A(26))
  IF (A(11).GT.1) ADJES=FLOAT(A(26))-FLOAT(A(11)-1)
  IF (A(20).GT.1) ADJES=ADJES-FLOAT(A(20)-1)
  ADJ=B(2)-ADJES
  CALL DCONV(ADJ,A(28))

```

```

C FC      A(14)=NDES(7)+NBDES(7)
C CF+C    A(15)=NDES(6)+NBDES(6)
C Pure C  A(16)=NDES(4)+NDES(5)+NBDES(4)+NBDES(5)
          A(40)=A(15)+A(16)
C Afr     NF7=0
          NL3=0
          DO 44 I=1,NR
          IF(NCAD(I),LE.7) THEN
            NF7=NF7+1
          ELSE
            NL3=NL3+1
          ENDIF
          44 CONTINUE
          IF(NF7.EQ.0) THEN
            B(3)=0.0
          ELSE
            B(3)=FLOAT(NL3)/FLOAT(NF7)
            B(3)=(ANINT(B(3)*100.0))/100.0
          ENDIF
C 3r+(2)/r B(4)=FLOAT(A(21)*3+A(22))
          B(4)=B(4)/FLOAT(NR)
          B(4)=(ANINT(B(4)*100.0))/100.0
C LAMBDA  A(24)=NDES(23)+NBDES(23)
          IF(NR.EQ.A(24)) THEN
            B(5)=0.0
          ELSE
            B(5)=FLOAT(A(24))
            B(5)=B(5)/FLOAT(NR)-B(5)
            B(5)=(ANINT(B(5)*100.0))/100.0
          ENDIF
C BLEND RESPONSE
          DO 48 I=1,NR
          IF(DETEM(I,2),NE.' ') THEN
            A(29)=A(29)+1
            BLEND(A(29),1)=DETEM(I,1)
            DO 46 K=2,5
              IF(DETEM(I,K),EQ.' ') GOTO 48
              BLEND(A(29),K)=DETEM(I,K)
              DOT(A(29),K-1)='.'
            CONTINUE
          46 ENDIF
          48 CONTINUE
C X+X      B(6)=FLOAT(NFOQ(1)+HFQX(2))/FLOAT(NR)
          B(6)=(ANINT(B(6)*100.0))/100.0
C F+*     IF(A(24).EQ.0) THEN
          B(7)=0.0
          ELSE
            B(7)=FLOAT(NFOQ(1)+HFQF(2))/FLOAT(A(24))
            B(7)=(ANINT(B(7)*100.0))/100.0
          ENDIF
C X-X      B(8)=FLOAT(NFOQX(4))/FLOAT(NR)
          B(8)=(ANINT(B(8)*100.0))/100.0
C W:M     W <- A(3)
          C W:D   D <- A(4)
          M <- A(7)
C Isolation: R
          A(41)=NCTMS(15)+NCTMS(17)+NCTMS(21)+NCTMS(23)+NCTMS(24)+
            + NCTAS(15)+NCTAS(17)+NCTAS(21)+NCTAS(23)+NCTAS(24)
C AK      B(9)=FLOAT(NCTMS(5)+NCTMS(7))/FLOAT(NR)
          B(9)=(ANINT(B(9)*100.0))/100.0
C Ab+Art  A(42)=NCTMS(9)+NCTMS(12)+NCTAS(9)+NCTAS(12)
C An+Ay   A(43)=NCTMS(11)+NCTMS(27)+NCTAS(11)+NCTAS(27)
C H(H)   A(46)=NCTMS(1)+NCTMS(2)
          A(47)=NCTMS(3)+NCTMS(4)
          A(33)=A(46)+A(47)
C Pure H  A(32)=NCTMS(1)
          A(30)=A(46)
C (HH)    A(50)=NCTMS(2)+NCTMS(4)
          A(51)=NCTMS(6)+NCTMS(8)
C H+A: H+Ad A(48)=NCTMS(1)+NCTMS(2)+NCTMS(5)+NCTMS(6)
          A(49)=NCTMS(3)+NCTMS(4)+NCTMS(7)+NCTMS(8)
C          DO 50 I=1,12
          ***** S-CONSTELLATION *****
          SCNS(I)=' '
          50 CONTINUE
          C 1.  FV+VF+Y+FD > 2
          A(23)=NDES(22)+NBDES(22)
          NSCI=A(19)+A(23)
          IF(NSCI.GT.2) CALL IXCNT(1,A(34),SCNS)
          C 2.  Col-Shd Blend > 0
          DO 58 I=1,A(29)
            L1=0
            L2=0
            DO 56 J=1,5
              DO 52 K=4,7
                IF(BLEND(I,J).EQ.DES(K)) L1=L1+1
              CONTINUE
            52 CONTINUE
            DO 54 K=8,19
              IF(BLEND(I,J).EQ.DES(K)) L2=L2+1
            CONTINUE
            54 CONTINUE
            56 IF(L1.GE.1.AND.L2.GE.1) A(30)=A(30)+1
              IF(L2.GE.2) A(31)=A(31)+1
            CONTINUE
            58 CONTINUE
            IF(A(30).GT.0) CALL IXCNT(2,A(34),SCNS)
          C ***** A(30) is the number of Color-Shading Blend

```



```

+DOT(6, 3), BLEND(6, 4), DOT(6, 4), BLEND(6, 5), NDES(6), NCTMS(6),
+NCTAS(6), SCNS(6)
WRITE(LP, 11) BLEND(7, 1), DOT(7, 1), BLEND(7, 2), DOT(7, 2), BLEND(7, 3),
+DOT(7, 3), BLEND(7, 4), DOT(7, 4), BLEND(7, 5), NDES(7), NCTMS(7),
+NCTAS(7), SCNS(7)
WRITE(LP, 12) BLEND(8, 1), DOT(8, 1), BLEND(8, 2), DOT(8, 2), BLEND(8, 3),
+DOT(8, 3), BLEND(8, 4), DOT(8, 4), BLEND(8, 5), NDES(8), NCTMS(8),
+NCTAS(8), SCNS(8)
WRITE(LP, 13) BLEND(9, 1), DOT(9, 1), BLEND(9, 2), DOT(9, 2), BLEND(9, 3),
+DOT(9, 3), BLEND(9, 4), DOT(9, 4), BLEND(9, 5), NDES(9), NCTMS(9),
+NCTAS(9), SCNS(9)
WRITE(LP, 14) BLEND(10, 1), DOT(10, 1), BLEND(10, 2), DOT(10, 2),
+NDES(10), NCTMS(10), NCTAS(10), SCNS(10)
WRITE(LP, 15) BLEND(11, 1), DOT(11, 1), BLEND(11, 2), DOT(11, 2),
+NDES(11), NCTMS(11), NCTAS(11), SCNS(11)
WRITE(LP, 16) BLEND(12, 1), DOT(12, 1), BLEND(12, 2), DOT(12, 2),
+NDES(12), NCTMS(12), NCTAS(12), SCNS(12)
WRITE(LP, 17) BLEND(13, 1), DOT(13, 1), BLEND(13, 2), DOT(13, 2),
+NDES(13), NCTMS(13), NCTAS(13), A(34)
WRITE(LP, 18) NQDS(1), NDFM(1), BLEND(14, 1), DOT(14, 1), BLEND(14, 2),
+BLEND(14, 3), NDES(14), NCTMS(14), SCNS(14)
WRITE(LP, 19) NQDS(2), NDFM(2), BLEND(15, 1), DOT(15, 1), BLEND(15, 2),
+BLEND(15, 3), NDES(15), NCTMS(15), SCNS(15)
WRITE(LP, 20) NQDS(3), NDFM(3), BLEND(16, 1), DOT(16, 1), BLEND(16, 2),
+BLEND(16, 3), NDES(16), NCTMS(16), SCNS(16)
WRITE(LP, 21) NQDS(4), NDFM(4), BLEND(17, 1), DOT(17, 1), BLEND(17, 2),
+BLEND(17, 3), NDES(17), NCTMS(17), SCNS(17)
WRITE(LP, 22) BLEND(18, 1), DOT(18, 1), BLEND(18, 2), DOT(18, 2),
+NDES(18), NCTMS(18), NCTAS(18), NSPS(3)
WRITE(LP, 23) BLEND(19, 1), DOT(19, 1), BLEND(19, 2), DOT(19, 2),
+NDES(19), NCTMS(19), NCTAS(19), NSPS(4)
WRITE(LP, 24) BLEND(20, 1), DOT(20, 1), BLEND(20, 2), DOT(20, 2),
+NDES(20), NCTMS(20), NCTAS(20), NSPS(5)
WRITE(LP, 25) NDES(21), NCTMS(21), NCTAS(21), NSPS(6)
WRITE(LP, 26) NDES(22), NCTMS(22), NCTAS(22), A(38)
WRITE(LP, 27) NQFX(1), NQFQ(1), NMQ(1), NCTMS(24), NCTAS(24), NSPS(8)
WRITE(LP, 28) NQFX(2), NQFQ(2), NMQ(2), NCTMS(25), NSPS(9)
WRITE(LP, 29) NQFX(3), NQFQ(3), NMQ(3), NCTMS(26), NCTAS(26), NSPS(10)
WRITE(LP, 31) NQFX(4), NQFQ(4), NMQ(4), NCTMS(27), NCTAS(27), NSPS(11)
WRITE(LP, 101)
WRITE(LP, 150)
WRITE(LP, 151) B(10), B(11), A(14), A(40), A(3), A(7)
WRITE(LP, 152) A(16)
WRITE(LP, 153) B(12), A(3), A(4)
WRITE(LP, 154) B(3)
WRITE(LP, 155) A(41), A(1)
+DOT(6, 3), BLEND(6, 4), DOT(6, 4), BLEND(6, 5), NDES(6), NCTMS(6),
+NCTAS(6), SCNS(6)
WRITE(LP, 156) A(7), B(1), B(2), B(4)
WRITE(LP, 157) A(27), A(42)
WRITE(LP, 158) A(43), A(44), A(26), B(5)
WRITE(LP, 159) A(45)
WRITE(LP, 160) A(10), A(17), A(18), A(28), A(29), A(1)
WRITE(LP, 161) A(11), A(19), A(20), A(46), A(47)
WRITE(LP, 162) B(6), A(32)
WRITE(LP, 163) A(12), A(13), B(7), A(50), A(51)
WRITE(LP, 164) B(8)
WRITE(LP, 165) B(8)
WRITE(LP, 166) A(35), A(36), A(34)
WRITE(LP, 167) A(35), A(36), A(34)
WRITE(LP, 101)
IF(ANS.EQ.'Y'.OR.ANS.EQ.'y') WRITE(LP, '(IH1)')
=====
100 FORMAT(21X, 'S T R U C T U R A L S U M M A R Y , 2X,
+ ( , 12, 2X, 13, 2X, 14, ' )
+=====)
101 FORMAT(
+=====)
102 FORMAT(3X, 'R = 13, 4X, 'Zf = 13, 4X, 'ZSum = 'F5.1, 4X, 'P = '13,
+ 4X, '(2) = 13, 4X, 'F+rF = 13 /)
103 FORMAT(3X, 'LOCATION', 12X, 'DETERMINANTS', 13X, 'CONTENTS', 7X,
+ 'S-CONSTELLATION')
104 FORMAT(3X, 'FEATURES', 5X, 'BLEMS', 16X, 'SINGLE', 24X, '(ADULT) /)
105 FORMAT(3X, 'W = 13, 6X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'M = 13, 2X, 'H = 12,
+ 12, 4X, 3, 'FW+VF+FD>')
106 FORMAT(3X, 'H = 12, 12, 4X, 3, 'EOK-31>44')
107 FORMAT(3X, 'D = 12, 4X, 3, '13, 6X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'M = 13, 2X, 'Hd = ',
+ 12, 12, 4X, 3, 'MOR > 3)
108 FORMAT(3X, 'Ddd = 13, 6X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'C = 13, 2X, '(Hd) = ',
+ 12, 12, 4X, 3, 'MOR > 3)
109 FORMAT(3X, 'S = 13, 6X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'Cn = 13, 2X, 'A = ',
+ 12, 12, 4X, 3, 'Zd > + - 3, 5')
110 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'CF = 13, 2X, '(A) = 12, 12, 4X,
+ A3, 'es > EA)
111 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'FC = 13, 2X, 'Ad = 12, 12, 4X,
+ A3, 'C+C+Cn > FC)
112 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'C' = 13, 2X, '(Ad) = 12, 12, 4X,
+ A3, 'X < 70)
113 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'C'F = 13, 2X, 'Ab = 12, 12, 4X,
+ A3, 'S > 3)
114 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'FC' = 13, 2X, 'Al = 12, 12, 4X,
+ A3, 'P < 3 OR > 8)
115 FORMAT(4X, 'Dq, 10X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'T = 13, 2X, 'An = 12, 12, 4X,
+ 12, 4X, A3, 'Pure H < 2)
116 FORMAT(3X, '... (DQ)... 1X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'TF = 13, 2X,
+ 'Art = 12, 12, 4X, A3, 'R < 17)
117 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'FT = 13, 2X, 'AY = 12, 12, 4X,
+ 7X, 15, '...TOTAL')
118 FORMAT(3X, ' = 13, '(, 13, '), 1X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'V = 13, 2X,
+ 'B1 = 12, 12, 4X, 3)
119 FORMAT(2X, ' = 13, '(, 13, '), 1X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'VF = 13, 2X,
+ 'Bt = 12, 12, 5X, 'SPECIAL SCORINGS')
120 FORMAT(3X, ' = 13, '(, 13, '), 1X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'FV = 13, 2X,
+ 'C6 = 12, 12, 7X, 'DV = 13)
121 FORMAT(3X, ' = 13, '(, 13, '), 1X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'Y = 13, 2X,
+ 'Cl = 12, 12, 7X, 'INCOM = 13)
122 FORMAT(16X, 4(A3, A1), A3, 3X, 'VF = 13, 2X, 'Ex = 12, 12, 4X,
+ 7X, 'DR = 13)

```

Exner の包括的システム (高橋・西尾)

```

123 FORMAT(16X,4(43,A1),A3,3X,'FV' = ,13,2X,'FI' = ,12,'',12,
+7X,'FARCOM' = ,13)
124 FORMAT(16X,4(43,A1),A3,3X,'Ff' = ,13,2X,'Fd' = ,12,'',12,
+7X,'ALOG' = ,13)
125 FORMAT(38X,'Fr' = ,13,2X,'Ge' = ,12,'',12,7X,'CONTAM' = ,13)
126 FORMAT(5X,'FQ',7X,'FOF',5X,'M Qual.',8X,'FD' = ,13,2X,
+6X,'Hs' = ,12,'',12,7X,'RSUM6' = ,13)
127 FORMAT(38X,'F' = ,13,2X,'LS' = ,12,'',12,7X,'AG' = ,13)
128 FORMAT(3X,'F' = ,13,3X,'+',13,3X,'+',13,17X,'Na' = ,13)
129 FORMAT(3X,'0' = ,13,3X,'o' = ,13,3X,'o' = ,13,17X,
+3X,'12',12,7X,'CP' = ,13,3X,'13)
130 FORMAT(3X,'u' = ,13,3X,'u' = ,13,3X,'u' = ,13,17X,
+3X,'12',12,7X,'MOR' = ,13)
131 FORMAT(3X,'-' = ,13,3X,'-' = ,13,3X,'-' = ,13,17X,
+3X,'12',12,7X,'PER' = ,13)
132 FORMAT(2X,'none' = ,13,12X,'none' = ,13,17X,
+1d10 = ,12,'',12,7X,'PSV' = ,13)
133 FORMAT(
+-----)
150 FORMAT(/24X,'RATIOS, PERCENTAGES, AND DERIVATIONS'/)
151 FORMAT(3X,'Zsum-Zest' = ,F5.1,'-',F5.1,12X,'FC:CF+C' = ,
+12,'',12,3X,'W:W' = ,12,'',12)
152 FORMAT(40X,'(Pure C' = ,12,'')')
153 FORMAT(3X,'Zd' = ,F5.1,39X,'W:D' = ,12,'',12)
154 FORMAT(40X,'Afr' = ,F4.2)
155 FORMAT(3X,'
+Isolate:R' = ,12,'',12)
156 FORMAT(3X,'EB' = ,13,'',F5.1,' EA' = ,F5.1,' ',9X,
+3*(2)/R' = ,F4.2)
157 FORMAT(3X,'',26X,'> D' = ,13,22X,'Ab+Art' = ,12)
158 FORMAT(3X,'eb' = ,13,'',13,4X,'es' = ,13,'',9X,
+L' = ,F5.2)
159 FORMAT(3X,'(FM' = ,12,4X,'C' = ,12,4X,'T' = ,12,''),(AdjD' = ,13,''),
+2X,'Blends:R' = ,12,'',12)
160 FORMAT(3X,'(m' = ,12,4X,'V' = ,12,4X,'Y' = ,12,''),32X,'H(H):Hd(Hd)' = ,
+12,'',12)
161 FORMAT(40X,'X+X' = ,F4.2,7X,'(Pure H' = ,12,'')')
162 FORMAT(3X,'a:P' = ,12,'',12,25X,'(R+X' = ,F4.2,'),2X,
+(HH4):(AAd)' = ,12,'',12)
164 FORMAT(40X,'X-X' = ,F4.2)
165 FORMAT(3X,'Na:Wp' = ,12,'',12,41X,'H+A:H+A+Ad' = ,12,'',12)
166 FORMAT(10X,'SCZI' = ,13,15X,'DEPI' = ,13,15X,'S-CON' = ,13)

CLOSE(6)
RETURN
END

C*****
SUBROUTINE ZEST(NZ,ZES,ZSUM)
*****
DIMENSION EST(50)
DATA EST/1.,2.,5.,6.,10.,13.,5.,17.,20.,5.,24.,27.,5.,31.,34.,5.,38.,
+41.,5.,45.,49.,52.,56.,59.,5.,63.,66.,5.,70.,73.,5.,77.,81.,84.,5.,88.,
+91.,5.,95.,98.,5.,102.,5.,105.,5.,109.,112.,5.,116.,5.,120.,123.,5.,127.,130.,5.,
+134.,137.,5.,141.,144.,5.,148.,152.,155.,5.,159.,162.,5.,166.,169.,5.,173./
*****
SUBROUTINE DCONV(A,ND)
*****
IF(A.GE.13.0.AND.A.LE.15.0) ND=5
IF(A.GE.10.5.AND.A.LE.12.5) ND=4
IF(A.GE.8.0.AND.A.LE.10.0) ND=3
IF(A.GE.5.5.AND.A.LE.7.5) ND=2
IF(A.GE.3.0.AND.A.LE.5.0) ND=1
IF(A.GE.-2.5.AND.A.LE.2.5) ND=0
IF(A.GE.-5.0.AND.A.LE.-3.0) ND=-1
IF(A.GE.-7.5.AND.A.LE.-5.5) ND=-2
IF(A.GE.-10.0.AND.A.LE.-8.0) ND=-3
IF(A.GE.-12.5.AND.A.LE.-10.5) ND=-4
IF(A.GE.-15.0.AND.A.LE.-13.0) ND=-5
RETURN
END

C*****
SUBROUTINE IACNT(L,N,C)
*****
CHARACTER*3 C(12)
C(L)='Yes'
N=N+1
RETURN
END

C*****
SUBROUTINE KINPUT(WCAD,N01,LOC,DQ,N02,DETEM,FQ,PAIR,COMT,
+POP,Z,SPSC,DES,LOS,DQS,FOS,CONTS,SPSCS,N,ID,SEX,AGE,GRP,
+DETFQ,LOCDO,CMTSQ,SPSEQ)
*****
DIMENSION Z(60),NCAD(60),N01(60),N02(60)
CHARACTER*3 DQ(60),FQ(60),PAIR(60),POP(60),DQS(4),FOS(5),ANS
CHARACTER*3 LOC(60),DETEM(60,5),DES(29),LOS(6)
CHARACTER*4 COMT(60,4),SPSC(60,4),CONTS(28),SPSCS(12),LOCDO(60)
CHARACTER*16 CMTSQ(60),SPSEQ(60)
CHARACTER*19 DETFQ(60)
INTEGER SEX,AGE,GRP
CHARACTER*19 W1
CHARACTER*1 A(19)
CHARACTER*3 W2
CHARACTER*1 B(3)
CHARACTER*4 W3
CHARACTER*1 C(4)
EQUIVALENCE (W1,A),(W2,B),(W3,C)
*****

```



```

IF(A(J1).EQ.' ') LAST=LAST+1
IF(LAST.GE.1) THEN
  C(L2)=A(J)
  CONT(I,L1)=#3
  GOTO 37
ELSE
  C(L2)=A(J)
  L2=L2+1
ENDIF
36 CONTINUE
37 CONTINUE
DO 40 J=1, L1
  N1=0
  DO 38 K=1, 28
    IF(CONT(I,J).EQ.CONTS(K)) N1=N1+1
  CONTINUE
38 IF(N1.EQ.0) THEN
  WRITE(6,154) CONT(I,J)
  GOTO 34
ENDIF
40 CONTINUE
41 CONTINUE
IF(L1.GE.2) THEN
  DO 44 J=1, L1-1
    DO 43 K=J+1, L1
      IF(CONT(I,J).EQ.CONT(I,K)) THEN
        WRITE(6,159)
        GOTO 34
      ENDIF
    ENDIF
43 CONTINUE
44 CONTINUE
GOTO 46
45 WRITE(6,125)
46 WRITE(6,113)
READ(5,205) POP(I)
IF(POP(I).EQ.'-') GOTO 34
IF(POP(I).EQ.'P'.OR.POP(I).EQ.' ') THEN
  ELSE
    GOTO 47
  GOTO 45
ENDIF
47 GOTO 49
48 WRITE(6,125)
49 WRITE(6,114)
READ(5,204) ERR=48) Z(I)
IF(Z(I).EQ.-1) GOTO 46
IF(Z(I).LT.0.) GOTO 48
IF(Z(I).GT.6.5) GOTO 48
GOTO 51
50 WRITE(6,125)
51 WRITE(6,115)
DO 92 J=1, 4
  SPSC(I,J)=.
  IF(A(J1).EQ.' ') LAST=LAST+1
  IF(LAST.GE.1) THEN
    C(L2)=A(J)
    CONT(I,L1)=#3
    GOTO 37
  ELSE
    W1=SPSEQ(I)
    DO 52 J=1, 16
      IF(A(J).EQ.' ') THEN
        WRITE(6,158)
        GOTO 51
      ENDIF
    ENDIF
52 CONTINUE
M3=.
L1=.
L2=1
LAST=0
DO 53 J=1, 15
  IF(A(J).EQ.' ') THEN
    SPSC(I,L1)=#3
    M3=.
    L1=L1+1
    L2=1
  ELSE
    J1=J+1
    IF(A(J1).EQ.' ') LAST=LAST+1
    IF(LAST.GE.1) THEN
      C(L2)=A(J)
      SPSC(I,L1)=#3
      GOTO 54
    ELSE
      C(L2)=A(J)
      L2=L2+1
    ENDIF
  ENDIF
53 CONTINUE
54 CONTINUE
DO 57 J=1, L1
  N1=0
  DO 55 K=1, 12
    IF(SPSC(I,J).EQ.SPSCS(K)) N1=N1+1
  CONTINUE
55 IF(N1.EQ.0) THEN
  WRITE(6,155) SPSC(I,J)
  GOTO 51
ENDIF
57 CONTINUE
58 CONTINUE
IF(L1.GE.2) THEN
  DO 61 J=1, L1-1
    DO 60 K=J+1, L1
      IF(SPSC(I,J).EQ.SPSC(I,K)) THEN
        WRITE(6,159)
        GOTO 51
      ENDIF
    ENDIF
60 CONTINUE
61 CONTINUE
ENDIF

```

```

+33X, '決定因子のコードをもっと一底入力して下さい。'
154 FORMAT(27X,A4,') /
+33X, '内容のコードをもっと一底入力して下さい。' /
155 FORMAT(27X,A4,') /
+33X, '特殊A27のコードをもっと一底入力して下さい。' /
156 FORMAT(' 形跡水準のコードが必要で、')
157 FORMAT('   で区切って下さい。')
158 FORMAT('   で区切って下さい。')
159 FORMAT('   同一のコードがあります。') /
+
160 FORMAT('   もう一底入力して下さい。')
204 FORMAT(P4,1)
205 FORMAT(A1)

RETURN
END

```

```

C*****
SUBROUTINE FINPUT(NCAD,NO1,LOC,DQ,NO2,DETM,FQ,PAIR,CONT,
+POP,Z,SPSC,DES,LOS,DAS,FQS,CONIS,SPSCS,M,1D,SEX,AGE,GRP,
+DETFQ,LOC,DQ,CRTSQ,SPSEQ,NEND,NERR)
C*****
DIMENSION Z(60),NCAD(60),NO1(60),NO2(60)
CHARACTER*1 DQ(60),FQ(60),PAIR(60),POP(60),DQS(4),FQS(5)
CHARACTER*5 LOC(60),DETM(60,5),DES(29),LOS(6)
CHARACTER*4 CONT(60,4),SPSC(60,4),CONTS(28),SPSCS(12),LOC,DQ(60)
CHARACTER*16 CRTSQ(60),SPSEQ(60)
INTEGER SEX,AGE,GRP
CHARACTER*19 W1
CHARACTER*1 A(19)
CHARACTER*3 W2
CHARACTER*1 B(3)
CHARACTER*4 W3
CHARACTER*1 C(4)
EQUIVALENCE (W1,A),(W2,B),(W3,C)

NERR=0
NERR=0
DO 7 I=1,60
  NCAD(I)=0
  NO1(I)=0
  NO2(I)=0
  Z(I)=0.0
  DQ(I)=.
  FQ(I)=.
  PAIR(I)=.
  POP(I)=.
  LOC(I)=.
  DO 8 J=1,5
    DETM(I,J)=.
  8 CONTINUE
  DO 9 I=1,4
    SPSC(I,I)=.
    CONT(I,I)=.
  9 CONTINUE
  7 CONTINUE

```

```

62 WRITE(6,119)
WRITE(6,126) NCAD(1),NO1(1),LOC(1),DQ(1),NO2(1),
+(DETM(1,J),J=1,5),FQ(1),PAIR(1),(CONT(I,J),J=1,4),
+POP(1),Z(1),(SPSC(I,J),J=1,4)
WRITE(6,116)
READ(5,205) ANS
IF(ANS.EQ.'-') GOTO 51
IF(ANS.EQ.'N'.OR.ANS.EQ.'n') THEN
  WRITE(6,117)
  GOTO 6
ENDIF
70 CONTINUE
C*****
80 N=1-1
104 FORMAT(' 図版番号 --> ',S)
105 FORMAT(' --> ',S)
106 FORMAT(' 領域番号 --> ',S)
107 FORMAT(' --> ',S)
108 FORMAT(' 領域番号 --> ',S)
109 FORMAT(' --> ',S)
110 FORMAT(' 決定因子 --> ',S)
111 FORMAT(' <-> ',S)
112 FORMAT(' 内容 --> ',S)
113 FORMAT(' --> ',S)
114 FORMAT(' 年齢 --> ',S)
115 FORMAT(' 特殊A27 --> ',S)
116 FORMAT(' 特殊A27 --> ',S)
117 FORMAT(' 正しいですか? (Y/N) --> ',S)
118 FORMAT(' 入力に誤りがありました。もう一底入力して下さい。' /
+/, ' 急ぐ必要はありません。確実に入力しましょう。')
119 FORMAT(' Cd No LOC DQ # 決定因子 FQ 2 内 容 P Z
+ 特殊A27 --> ',S)
123 FORMAT(' 被験者の I D 番号を入力して下さい。' /
+/, ' 正しく入力して下さい。')
125 FORMAT(' --> ',S)
126 FORMAT(2X,12,1X,12,1X,A3,1X,A1,1X,12,1X,5A3,1X,A1,1X,
+/,A1,1X,4A4,A1,1X,F4,1,1X,4A4)
127 FORMAT(' 性別 (1:男 2:女) (1/2) --> ',S)
128 FORMAT(' --> ',S)
129 FORMAT(' --> ',S)

```

```

+/, ' 分類
+/, ' -----
+/, ' 正常者群 --> 1
+/, ' 特殊患者群 --> 2
+/, ' アルコール症者群 --> 3
+/, ' 非行少年症者群 --> 4
+/, ' 精神分頓症者群 --> 5
+/, ' 非定型精神症者群 --> 6
+/, ' うつ病者群 --> 7
+/, ' 躁病者群 --> 8
130 FORMAT(' 躁病者群 --> 9
+/, ' 格闘者群 --> 10
+/, ' その他
+/, ' -----
+/, ' --> ',S)
131 FORMAT(/,6X,'第 12, 12, 反応のスコアを入力して下さい。 (終了は 99 と
+/, ' 入力します。') /
132 FORMAT(/,6X,'よろしいですか? (Y/N) ----> ',S)
150 FORMAT(/,6X,A3,') のコードは使用されていません。' /
+33X, '領域のコードをもっと一底入力して下さい。')
152 FORMAT(27X,A3,') のコードは使用されていません。' /

```

```

READ(2,200,ERR=900,END=20) GRP, SEX, AGE, ID, N
DO 10 J=1, N
  READ(2,201,ERR=900) NCAD(1), NO1(1), LOCQ(1), NO2(1),
  +DETQ(1), PAIR(1), CNTSQ(1), POP(1), Z(1), SPSEQ(1)
C***** . CONVERT ****
  M1=LOCQ(1)
  W2= .
  LAST=0
  JL=0
  DO 30 J=1, 3
    J1=J+1
    DO 31 K=1, 4
      IF(A(J1).EQ.0) LAST=LAST+1
    CONTINUE
    IF(LAST.GE.1) THEN
      B(J)=A(J)
      LOC(1)=W2
      DQ(1)=A(J1)
    ELSE
      B(J)=A(J)
    ENDIF
  ENDIF
  IF(LAST.GE.1) GOTO 32
30 CONTINUE
32 CONTINUE
  M1=DETQ(1)
  W2= .
  L1=1
  L2=1
  LAST=0
  DO 40 J=1, 19
    IF(A(J).EQ.1) THEN
      DETEM(1,L1)=W2
      W2= .
      L1=L1+1
      L2=1
    ELSE
      J1=J+1
      DO 41 K=1, 5
        IF(A(J1).EQ.0) LAST=LAST+1
      CONTINUE
      IF(LAST.GE.1) THEN
        B(L2)=A(J)
        DETEM(1,L1)=W2
        EQ(1)=A(J1)
      ELSE
        B(L2)=A(J)
        L2=L2+1
      ENDIF
    ENDIF
  ENDIF
  IF(LAST.GE.1) GOTO 42
40 CONTINUE
42 CONTINUE
  M1=CNTSQ(1)
  W3= .
  L1=1

```

```

L2=1
LAST=0
DO 50 J=1, 15
  IF(A(J).EQ.1) THEN
    CONT(1,L1)=W3
    W3= .
    L1=L1+1
    L2=1
  ELSE
    J1=J+1
    IF(A(J1).EQ.1) LAST=LAST+1
    IF(LAST.GE.1) THEN
      C(L2)=A(J)
      CONT(1,L1)=W3
    ELSE
      C(L2)=A(J)
      L2=L2+1
    ENDIF
  ENDIF
  IF(LAST.GE.1) GOTO 52
50 CONTINUE
52 CONTINUE
  M1=SPSEQ(1)
  W3= .
  L1=1
  L2=1
  LAST=0
  DO 60 J=1, 15
    IF(A(J).EQ.1) THEN
      SPSC(1,L1)=W3
      W3= .
      L1=L1+1
      L2=1
    ELSE
      J1=J+1
      IF(A(J1).EQ.1) LAST=LAST+1
      IF(LAST.GE.1) THEN
        C(L2)=A(J)
        SPSC(1,L1)=W3
      ELSE
        C(L2)=A(J)
        L2=L2+1
      ENDIF
    ENDIF
  ENDIF
  IF(LAST.GE.1) GOTO 62
60 CONTINUE
62 CONTINUE
C***** . CONVERT END ****
  10 CONTINUE
200 FORMAT(2(I2),I3,I4,I3)
201 FORMAT(2I2,A4,I2,A19,A1,A16,A1,F4.1,A16)
20 NEND=1
20 GOTO 999
900 WRITE(6, '(A)') 'フォーマットが異なるため読み込めません。
NERR=1

```



```

+CHTSG(1),POP(1),Z(1),SPSEQ(1)
ELSE
WRITE(LP,104) CARD(NC),NO1(1),LOCDO(1),N02(1),DETFQ(1),PAIR(1),
+CHTSG(1),POP(1),SPSEQ(1)
ENDIF
K=NCAD(1)
20 CONTINUE
WRITE(LP,101)
IF(ANS.EQ.'Y'.OR.ANS.EQ.'y') WRITE(LP,'(HI)')
100 FORMAT(32X,'スコアの系列',9X,
+(' ',12,2X,12,2X,13,2X,14,' '),
+-----)
101 FORMAT('-----')
102 FORMAT('Cd No 領域 # 決定因子      2 内容      P
+Zsc 特殊?????')
103 FORMAT(2X,A2,1X,12,1X,A4,1X,12,1X,A19,AL,2X,A16,1X,AL,1X,F4,1,
+1X,A16)
104 FORMAT(2X,A2,1X,12,1X,A4,1X,12,1X,A19,AL,2X,A16,1X,AL,6X,A16)
CLOSE(6)
RETURN
END

C*****
SUBROUTINE PRDID(N, ID, SEX, AGE, GRP)
C*****
INTEGER SEX, AGE, GRP
NCHARACTER*2 NSEX(2)
NCHARACTER*7 CTGRY(10)
DATA NSEX/'男性',女性/
DATA CTGRY/'正常者',精神分裂病者,
+うつ病者,
+,躁病者,
+,その他/
CALL TCLR
WRITE(6,100) ID, CTGRY(GRP), NSEX(SEX), AGE, N
100 FORMAT(/,/6X,'I D 番号',13,5X,N7,2X,N2,2X,13,'歳',5X,
+ 反変数',13//)
RETURN
END

C*****
SUBROUTINE STSAVE(N1, N2, N3, N4, N5, A, ID, SEX, AGE, GRP)
C*****
DIMENSION NI(51), N2(4), N3(5), N4(5), N5(12), NDM(51)
DIMENSION A(12), ADM(12)
CHARACTER*12 FILENM, FID
INTEGER SEX, AGE, GRP
IF (GRP.EQ.1) FILENM='B:NO.SUM'
IF (GRP.EQ.2) FILENM='B:NE.SUM'
IF (GRP.EQ.3) STATUS='OLD', FILE=FILENM
IF (GRP.EQ.4) FILENM='B:AL.SUM'
IF (GRP.EQ.5) FILENM='B:DE.SUM'
IF (GRP.EQ.6) FILENM='B:SC.SUM'
IF (GRP.EQ.7) FILENM='B:AC.SUM'
IF (GRP.EQ.8) FILENM='B:DP.SUM'
IF (GRP.EQ.9) FILENM='B:MA.SUM'
IF (GRP.EQ.10) FILENM='B:PD.SUM'
IF (GRP.EQ.11) FILENM='B:ZZ.SUM'
OPEN(1,ERR=3,STATUS='OLD',FILE=FILENM)
READ(1,(A12)) FID
1 READ(1,200,END=2) NSRP, NSRP, NSRP, NSRP, NSRP
READ(1,201) (NDM(J),J=1,51)
READ(1,202) (ADM(J),J=1,26)
READ(1,203) (ADM(J),J=1,12)
GOTO 1
2 BACKSPACE 1
WRITE(1,200) GRP, SEX, AGE, ID
WRITE(1,201) (N1(J),J=1,51)
WRITE(1,202) (N2(J),J=1,4), (N3(J),J=1,5), (N4(J),J=1,5),
+(N5(J),J=1,12)
WRITE(1,203) (A(J),J=1,12)
ENDFILE 1
CLOSE(1)
GOTO 999

3 GOTO 5
4 WRITE(6,'(A)')
5 WRITE(6,'(/A,S)'), 保存するファイル名を入力して下さい。 -->
READ(5,(A12)) FILENM
OPEN(1,ERR=4,STATUS='NEW',FILE=FILENM)
WRITE(1,(A12)) FILENM
WRITE(1,200) GRP, SEX, AGE, ID
WRITE(1,201) (N1(J),J=1,51)
WRITE(1,202) (N2(J),J=1,4), (N3(J),J=1,5), (N4(J),J=1,5),
+(N5(J),J=1,12)
WRITE(1,203) (A(J),J=1,12)
ENDFILE 1
CLOSE(1)
GOTO 999

200 FORMAT(212,13,14)
201 FORMAT(5112)
202 FORMAT(2612)
203 FORMAT(12F6.2)

999 RETURN
END

C*****
SUBROUTINE TUPET
C*****
CHARACTER*1 ANS
CALL TCLR
WRITE(6,'(////)')
WRITE(6,'(5X,A)'),

```

```
,  
+ t e m , ( / ) ,  
  W R I T E ( 6 , ( 5 X , A ) ) ,  
+ r a m , V e r . 1 . 2 ,  
  W R I T E ( 6 , ( 5 X , A ) ) ,  
+  
  W R I T E ( 6 , 1 9 9 0 . 5 ,  
+ W R I T E ( 6 , ( 5 X , A ) ) ,  
+ s e d b y H . N i s h i o ,  
  W R I T E ( 6 , ( / / / / / / / / / / ) ) ,  
  W R I T E ( 6 , ( 7 X , $ ) ) ,  
  R E A D ( 5 , ( A 1 ) ) A N S  
  R E T U R N  
  E N D
```

D a t a S t o r a g e . P r o g

P r o g r a